

第 12 回 共和政ローマ①

1 都市国家ローマの発展

- ・前 8 世紀ころ、イタリア半島の中部には民族系統不明の（ ）が、都市国家を建設していた。
- ・イタリア半島の南部には、（ ）やタレントゥムなどギリシア人の植民市があった。

☆（ ）（前 509～前 27 年）

- ・伝説では前 753 年に、古代イタリア人の一派であるラテン人が、（ ）の下流に都市国家を建設した。
→これが（ ）であり、当初はエトルリア人の王に支配されていた。
- ・前 509 年、ローマは、エトルリア人の王を追放して、共和政ローマを樹立した。



ロムルスとレムス

ローマの建国には、狼に育てられた双子の兄弟の伝説がある。ローマという名も、ロムルスにちなんでいる。



エトルリア美術

エトルリア人については、まだわからないことの方が多い。金属の鑄造など、優れた技術を持っていたようだ。



現在のティベル川

現在もローマの中心部を流れているが、現在はテヴェレ川と呼ばれている。

< 共和政ローマの政治体制 >

- ・共和政ローマでは、（ ）・（ ）・奴隷の身分があった。
→任期 1 年で 2 名の（ ）が、貴族から選ばれて最高官となった。
- ・そして貴族の長老が議員を務める（ ）が、政治の中心となった。
- ・ただし非常時には、任期半年の（ ）が全権を握った。

2 貴族と平民の身分闘争

- ・ローマでもギリシアと同じように、貴族が政治を独占していた。
→（ ）として活躍する平民は、政治的な不平等の撤廃を求めている。

- ・前 494 年、聖山事件という平民のストライキが起きた。
→元老院の決定を拒否できる、平民出身の（ ）という官職ができた。
- ・全男性市民からなる民会に加え、平民のみの（ ）も設置された。

- ・前 451 年、最初の成文法である（ ）が制定された。
→貴族による法の独占を防いだ。

- ・前 367 年、（ ）が制定された。
→（ ）のひとりを平民とし、さらに貴族の大土地所有を制限した。

- ・前 287 年、() の制定。
→平民会の決議が、元老院の承認がなくても、最終決定とされることになった。
→身分闘争は一応終了し、政治的な発言力を持つ富裕な平民も登場した。
※従来の貴族と、台頭した平民を合わせて、() という。

3 ローマの海外進出

- ・前 272 年、ローマはギリシア植民市タレントゥムを占領し、イタリア半島を統一した。
→ローマは征服したイタリア半島の都市で () を行った。
- ・海外進出を狙うローマにとって最大のライバルとなったのは、フェニキア人の植民市であり海外貿易で栄える () であった。

<第1回ポエニ戦争>

- ・前 264 年、ローマとカルタゴは全面戦争に突入した。
※フェニキアをラテン語でポエニというので、これを () という。
→ローマが勝利し、最初の属州として () を獲得した。

<第2回ポエニ戦争>

- ・カルタゴの将軍 () は、冬のアルプスを超えてイタリア半島に侵入し、カンナエの戦いでローマ軍に大打撃を与えた。
→しかし前 202 年、ローマの将軍 () が () でカルタゴを破り、今回もローマが勝利した。



ハンニバルのアルプス超え

ハンニバル率いる5万のカルタゴ軍は、冬のアルプスを超えた。イタリアでは、今でも言うことを聞かない子供に、「ハンニバルが来るよ!」と脅すらしい。



ハンニバル

VS.



大スキピオ

ハンニバルに敗れる寸前のローマに、彗星のごとく現れたのが、25歳の将軍大スキピオであった。ふたりとも世界史上に残る名将とされている。

<第3回ポエニ戦争>

- ・前 146 年、ローマの小スキピオが、カルタゴを完全に滅ぼした。
※ローマは地中海世界で最大の国家となり、広大な () を手に入れた。

イタリア半島	植民市	ローマの植民により建設。自治権、ローマと同等の完全な市民権を保有
	自治市	自治権を保有するが不完全な市民権(参政权なし)。納税・従軍の義務
	同盟市	市民権なし→同盟市戦争(前91~前88) 従軍の義務

イタリアの分割統治

服属都市の間に待遇の差をつけて団結を防ぐ政策

